

普及センターだより

未来 ひだか

みらくる

2017年4月

日高農業改良普及センター



次代を担う青年農業者ゼミナール 1期生閉講式・2期生開講式
ゼミナール生と応援して頂いている関係機関の方々

着任のご挨拶

日高農業改良普及センター 所長 松井 克行

網走農業改良普及センター網走支所より当日高農業改良普及センターに参りました松井克行と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当日高地域は、全国一の軽種馬生産産地であるとともに施設園芸作物や肉用牛生産なども北海道を代表する産地となっております。この日高地域で勤務することができ、光栄に思います。

昨年は、3つの台風より大きな被害を受けた年でありました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。しかし、そのような中でも主力園芸品目では農業者の皆様の適切な技術対策により平年並みの出荷量を確保し、また、軽種馬では市場での売却頭数・販売価格ともに前年を上回る結果となりました。これも皆様のご努力の賜と敬意を表する次第です。

普及センターは、平成28年度より活動体制が変わり、新体制のもと「第5期北海道農業・農村振興推進計画」における6つの振興施策の展開方法の視点に立ち、日高振興局と連携し、日高農業の地域課題解決に向けた取り組みを行っているところです。職員一同、常に農業者の皆様側に立ち、提案型の活動を今後も継続いたしますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

本年は、災害が無く実り多き年になるようご祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

参考にしよう！ 地域の活動事例

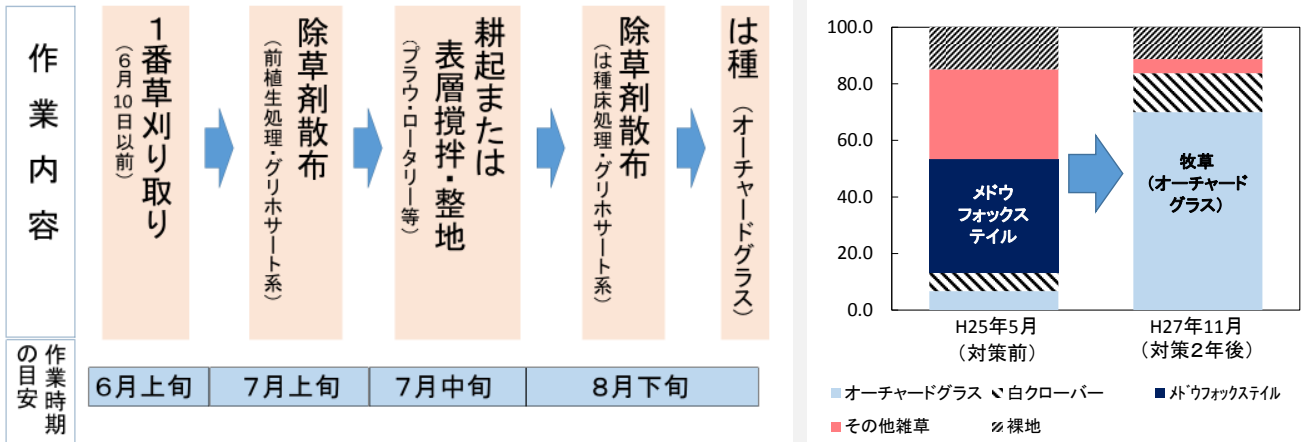


日高の牧草地から 厄介者のメドウフォックステイルを撃退！

メドウフォックステイル（MFT）は、生育が早く、草地更新してもすぐに侵入しやすいやっかいなイネ科雑草です。日高農業技術支援会議（試験場、普及センター、振興局）では、MFT防除試験に取り組み、対策を整理しましたので紹介します。

- 対策のポイント
- ① 更新2年以上前から、6月10日以前に刈り取りを実施する
 - ② 再生力・競合力が強いオーチャードグラスをは種する
 - ③ 1番草刈り取り後とは種前の2回除草剤処理する

上記の取り組みにより、3年経ってもほとんどMFTは見られず、埋没種子からの発芽を抑制できることを確認しました。



MFT 駆除のスケジュール例

更新前と更新2年後の植生割合

MFTを駆除するには、更新後の管理も重要です。また、牧草収穫機械を掃除するなど侵入防止を確実にすることも大切です。詳細については、普及センターのホームページに記載してありますので、ご覧ください。

(日高農業改良普及センター ホームページアドレス参照

<http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/2016medoufoxtail.pdf>)

新ひだか町・新冠町における新規就農者の支援活動の紹介！

新ひだか町・新冠町では、各担い手協議会により新規参入希望者を受け入れ、新ひだか町では2年間、新冠町では3年間の研修期間を経て就農します。

普及センターでは、両協議会と連携し、就農に向けた基礎知識の習得を支援するため、研修1年目の冬期に座学講座を開催しております。

主な講座内容は、土壌肥料学・病害虫・農作物栽培技術・畜産技術・農業経営学などがあります。土壌肥料学では、ハウス内で穴を掘り土壌断面調査の実践や土壌分析から施肥設計、経営学では経営シミュレーションなども行っています。



本年度は新ひだか町5回、新冠町8回の講座が開催され、うち4回は両町共通の内容であることから、合同開催となりました。5名の研修生が受講しましたが、対象者以外からの受講希望もあるほど、活気のある冬期講座になりました。

注目！ 地域の話題コーナー

日高管内農業研究大会 開催!! 発表した4Hクラブの活動を紹介!

平取町4HC

〈私、トマト捨てないの
～トマトオイルと
ドライマトの試み～〉

平取町4Hクラブでは、9月以降の完熟トマトの有効利用を目的に、トマトの種子からオイルの抽出と、ドライマトの作成に取り組みました。

加工品作りは初めてだったので、試作と失敗の連続でした。その中で結束力が高まり、クラブ員で役割分担・協力し、成果を発表することができました。

今年のプロジェクトも、お楽しみに!



トマトオイル抽出中

新冠町4HC

〈新冠町4Hクラブ発!
新冠町における
植生改善の取り組み〉

新冠町4HCでは「新冠町4Hクラブ発!新冠町における植生改善の取り組み」という題で加藤裕也さんが活動の報告をしました。

新冠町の自給飼料基盤の改善のため、今年はクラブ員の草地状態の分析と、意識調査を行い、計画的な肥培管理と草地更新を行う必要性を学びました。反省点も見え、今後も活躍が期待されます。



植生改善のための調査

浦河町4HC

アグリメッセージ
〈人への感謝〉

アグリメッセージ部門で齊藤善厚さんが、「人への感謝」と題して自らの思いを述べました。「就農した当初、従業員との考え方の違いで衝突したりすることもあった。しかし、年月を重ねる中で自分の牧場を選んでくれたことに対する感謝の気持ちが強くなり、この従業員と共に支え合っていきたい」と決意を込めた、堂々とした発表でした。



決意を述べる齊藤善厚さん

次代を担う青年農業者ゼミナール 1期生閉講式・2期生開講式 同時開催!

平成29年3月13日、日高生産連ビルで開催。両ゼミナール生18名と関係機関を含め51名が参加しました。

1期生は2年間の活動報告や修了証書授与、2期生は自己紹介やオリエンテーションを行いました。また先輩リーダーの管内指導農業士・農業士会会長 渡辺隆氏、日高農業生産法人会会長 杉山憲由氏からメッセージを頂きました。1期生のカリキュラムは終了しますが、2年間で見つかった各自の課題に対し、今後も普及センターは支援します。2期生はゼミナールが始まります。関係機関の方々も含め、応援をよろしくお願い致します。

また同日、1期生の第6回ゼミナールも開催、2期生も参加。天野洋海氏(あま屋 代表取締役)から「農産物の高付加価値化」についてお話を頂き、ゼミナール生は、天野氏のお話に傾聴。1期生と2期生の交流会も行いました。今後のゼミナールに期待して下さい!



1期生修了証書授与
(平取町 福澤孝彦さん)



2期生「今後の抱負」語る
(新ひだか町 森 誠さん)



第6回ゼミナールも盛大に幕を閉じました
天野氏の講話に、大満足な1期生と2期生

日高で参考にしたい！ 平成28年度に発表された農業新技術を紹介

課題名	課題内容
「肥育地の効果」を活用した肥育管理改善点の提示法	黒毛和種肥育において、配合飼料や環境などの「肥育地の効果」を活用し、肥育管理上の問題点をより客観的に“見える化”し、改善策を提示する技術が開発されました。
地域防疫のための酪農場の感染症モニタリング	地域でモニタリングを定期的実施することによって、感染症を早期発見する酪農場の感染モニタリング手法が示されました。
ミニトマト斑点病の発生実態と防除対策	半促成～夏秋どり作型で6月下旬から斑点病の発病が認められました。多湿条件で多発しやすいこと、発病初期の確認が困難であることから、発生確認前からローテーション防除を開始することでの防除対策が示されました。
小豆新品種「十育167号」	成熟期、収量性が「エリモショウズ」「きたのおとめ」と同等、製あん評価が「エリモショウズ」並に優れます。さらに落葉病、萎凋病にも抵抗性を有します。

※新技術情報はまだまだあります。詳しくは普及センターにご相談ください。
インターネットから調べる場合は「北海道農業試験場 試験研究成果一覧」と検索して下さい。

平成29年4月1日付けで職員の異動がありました

〈 よろしくお願ひします 〉



本所
所長
松井 克行

どうぞ、よろしくお願ひします。



本所
主任普及指導員
仲島 亮介

4年前まで西部支所に勤務していました。どうぞよろしくお願ひします。



本所
地域第二係長
福屋 秀樹

地域の皆さんと一緒に頑張りますので、よろしくお願ひします。



本所
普及職員（新規）
菊地 聖崇

社会人となり、初めての事ばかりですが、精一杯がんばります。



西部支所
普及職員（新規）
宮崎 駿

全力で学び、全力で務めます！どうぞよろしくお願ひします！！！！

〈 お世話になりました 〉

所属	役職	名前	転出先
本所	所長	福谷 洋一	上川農業改良普及センター 本所
本所	主任普及指導員	田口 章一	上川農業改良普及センター 本所
本所	係長(地域第二)	高田 一直	技術普及課（農業研究本部駐在）
本所	専門普及指導員	三宅 陽	胆振農業改良普及センター 東胆振支所
西部支所	専門普及指導員	中道 真仁	渡島農業改良普及センター 本所

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>